

1945年（昭和20年 辰雄41歳）

小池辰雄書簡（妻への手紙）（3）

（宛先）岩手県一ノ関町川街 小池順子様

（群馬県吾妻郡嬭恋村新鹿沢）小池辰雄

——1945年6月9日 夜——

順子！

6月3日のお芳書有難う。聖書はドイツ語でマタイ伝をもうじき終わります。新しい真理にふれてよろこんでいます。読むたびに新しき真理かなです。不愉快なことに打ち勝っています。こちらの生活はしかし概して愉快です。何しろ毎日この美しい自然に酔うばかりです。吾妻山であり！ 妻恋村であるのも、日本武尊等の故事のみならず、わが現実としてシックリした名称で、心を慰めてくれるのは事実です。

仮住居は何かありませんかね。不便などよいから少し離れたところでも、真剣にさがしてごらんないさい。或いはさがすよりも、いろいろな人と知り合いになつて手づるをつくる方が名策でしょう。祖母ちゃんとの何のかの条件を考えられるでしょうが、それはガマンしなければなりません。山の日^{ごて}は後手で惜しいことをしましたね。ボヤボヤしては駄目ですよ。照雄のために行動の自由がないのでお気の毒ですが、照雄を早く歌子や清子にまかせる様にするのですね。

藤井先生のお宅が焼けたとは痛心にたえません。洋君たちはどうしているでしょう。章さんにたずねてみます。石川も一角がやけた由。塚本先生のところもどうだったかしら。三神敏夫君も案ぜられます。中野も自宅も大丈夫だったことが、いずれも友人（フランス語の木内君に家をたずねて、双眼鏡をもって来てもらいましたから）でわかりました。中野の方はロシヤ語の永島君がつい近所で焼けたのでこれも確かめてくれました。（紙のケンヤクのため裏へ）

常磐のおばあさんからは私のところへは一週間ほど前におたよりをいただきました。典チャンの筆でした。喜美チャンは国雄さんの遺骨到着で帰京中の由。上荻窪の兄と姉へはその後、出しません。一度出したのに返事がありませんから、あの例の15箇の荷物が未だ熊本から動かないのでフンガイしているらしいです。何しろ、たのまれて世話をあれだけして、あとは悪^{にく}まられるのですからアクレマス。私はあれでも閣下^{かくた}というものかと思っています。自分の兄ながら、実際悲観しますよ。何しろ少し変質ですよ。非常識です。

陳君夫妻からは前便の如くなかなか詳しいたよりがありました。素蛾さんはなかなか文学的才能があります。随分困っている様でもあります。何といつてもお医者さんですか



ら、我々よりよいでしょう。一度様子をたずねてみたいものですが、とにかく私のダンス2つ、本箱計4つと本数10冊をたのんでよかったと思っています。洋服も一揃い入っているし。本当に残念だったのはオルガンや茶ダンスやセトモノをもつたのまなかったこと。本をうんと積まなかったことでした。

軽井沢からの何しろ駅前でいそいでつくつたので梱包不十分でセトモノがこわれたのは、またゴマのビンがわれたのは残念でした。水飴はよかったですね。心配していました。照雄がそんなによろこぶなら本望です。何といっても今の子は可哀想です。

Fのこと、さもありんとうなずけます。die〔女性〕でなくdas〔中性〕ですから、否der〔男性〕のですから。Rice〔米〕はなかなかわけてくれませんか。一番欲しいのですが。東京の防空壕の中のRiceが腐らぬとよいと思っていますが。

歌子もすっかり学校の子供らしくなつた様で安心します。幼稚園的超然がいつまでもとれなくては思っていました。

石川のおばあさんと泰チャンの訪問と、母子三人の焼死のテンマツをよんで暗涙をもよいました。いたましい現実です、戦争とはいいいながら。本当に気の毒なことをしました。泰チャンのお母さんには、あの七輪を僕のところへもつて来られたときお目にかかったのが最後となつたとは！ 目にみえる様です。こんどは渋谷はヒドかった相ですね。三軒茶屋以西はよいと思っていたのに新町も然りとは。成城学園も一部消失の由。池上君のあたりもわかりません。金沢先生の家にやはり落ちて一部焼けた由。先生の奥様は胃潰瘍で一時危篤におちいられた由です。金沢先生でも浅間からそのため帰京された由です。松田君は府立を休職で東亜進興会とかの委託で「東亜交渉史」を研究中。軽井沢南原の野村方で悠々御生活です。おはなしの中の人々はどういうよいめぐりあわせになるものなのでしょう。やはり世の中は上層階級に有利に出来ている様です。東京でもみんな運べたらしく、トラックのありの力ではないかと思われます。でも松田君から佐藤君のことを心配してられて大東亜省の人を間接に知っているからというので目下交渉依頼中です。よい結果になればと思います。道子さんはFとはちがいますが、なかなかシッカリものですから。松田君のところへはいつか遊びに行つて一泊してやろうと思っています。同君も是非といつてくれますから。とにかく羨ましくできています。

石川と泰チャンへは御たよりします。

それから、木内君がこの間上京の際、関根秀雄氏へ一泊したのですが、その際、正雄君がドイツから帰京の途にあり、満州辺まで来たといえますから近々、帰京する様です。よく帰れたと思います。

この月の半に10日間ほどこちらの授業のない時があるので、語学試験問題レンラク業務のため上京出来れば、関根君にあつてもよまのはながきけると楽しみです。その際、休暇を何とかしてとつて、一ノ関まで長駆したいのですが、カンジがヤカマシク戦

時下の勤務につき請願休暇をなかなかゆるさぬ由。ケチケチしているのでみんなブツブツ云っています。たまには休ませてくれればよく働くのということがわかりません。10日も授業がなくてもつたいない話です。請願休暇は、親、妻子の急病や死によらねばださぬというような始末。また、家の罹災の場合。もう一家上京の上、全部、壕にタタキコンで、あとはやけてもいいようにし、やけたら一ノ関ゆきかね、ハハ……。どうせ、やけますよ、あの通りの空襲ですから。こっちの心だつてやけていますよ。そして、浅間の様にバクハツしそうでさあ、ハハ……。

こちらにも今に梅雨期に入ると一寸、憂鬱らしい。お湯には朝がしずかでキレイだから、朝早く、5時すこし前に入ることにしています。早起きでしょう。同室の植田、木内両君も然り。三人で八畳に居ます（私が三等官というわけで優遇の意味です）。普通は一人二畳あてです。しかし、ロシヤ語の永島君の如きスゴ腕は旅館で（別の旅館にロシヤ語の連中は居ます）別に一室を借りて、そこに（八畳）一人でガンバッテいます。一ヶ月60円を私費ではらつて。よく勉強も出来るといっています。御馳走もたべられます。こちらでは学校の御飯は充分ですが、おかずが貧弱なので（何しろどえらい数ですから）、時折会食をして宿から御馳走をあつらえます。語学ですでに数回ひらきました。牛肉、ワカサギ、タマゴヤキなどがありました。さすがに旅館だけあります。明日は、高原で開校記念日、運動会をひらき、お昼は高原で。晩は同室の三人で会食。

7月下旬にはいよいよ下山です。もう三分の一の日数がたつたわけです。果たして下山するとき東京の自宅ありや。学校も健在なりやであります。語学は無くなると思いきや、ひきつづき東京で次期を教えます。みんなガツカリというところ。決戦とあらば我々は田園で増サン部隊に入りたい位ですが。

今晚は課外講義で2時間を永島君の「ロシヤの諸民族」、柴田君の「ロケット機」、私の「ドイツ民族の本質論」で費やしました。第31中隊（二字隊）全生徒300名に講演をいたしました。これが殿をわかし大いに熱弁を振るいましたからよろこんで下さい。結論は相当宗教的なものとなりました。みんな何か打たれるれものがあつたと思います。（私は第31中隊の指導的教官7名中の首です。全教員中の第3位に居るので責任もあります。）

ここに居ると空襲はなく本当に思う通りに本もよくよめて幸です。せいぜいあと一ヶ月半を楽しんで帰ります。みんな元気で居て下さい。将来のことは全くわかりませんが、信仰一テンバリで行かぬと到底、この現実をきり抜け得ません。神様を絶対に信賴してしがみついて歩きなさい。神と共にあること、これ人生の最大の幸福ですから。

では今晚はこのへんでオヤスミナサイ。私の無限に熱いハートを抱いて下さい。私も同様に順子のあたたかいハートを抱きます。

神、我らと共にいつまでも。神、我国を正しく導き、堅くまもり給わんことを。主イエス・キリストの恩恵の下で。



（中井さんに世話になつてゐる限りは、どこまでもクリスチャンらしく行動していると信じます。）人間の、人生の最後の価値は人格に在り。開封のときすずらの香りがするように！

順子よ、1945年6月9日夜、辰雄。

——1945年6月22日——

この間は一ノ関を例の如く、大体突然という按配に奇襲して愉快でした。しかし順子が風邪を引いているのに一寸驚きました。何かにつけ一寸無理なのでしょう。しかし独立できれば少しづらくても万事OKになるでしょう。清子も自然お母さんのお手伝いを自発的にする様になり、かのMUTTER〔母親〕代わり式のマネもしなくなつてよいのだと思います、見ていると。三番目のYの字の外は余り感心できませんが。こちらでも影響されて悪くなり、お互いによくないことの方が多いとすると、子供の教育上考えものです。あちらにしても、我々が居るために悪くなつたとあとから言う様なことになれば、面白くないことでもあり、とにかく、いろいろな角度から考えてどうも長期になることは禁物。何とか真剣に工作を試みて下さい。そのために金銭物質上の犠牲はいくら払つてもかまわないと思います。ことに戦争の深刻化と共に一ノ関の町の必ずしも安全でないことと藁葺きの屋根が大分心配になります。私が一週間でも滞在すれば近隣の町村を大いに物色するのですけれども、それが出来ないのは残念なことです。順子として出来るだけやつてみて下さい。

滞関中は、ごく短時間でしたが、ゆつくりした気分でみんなに接し得てうれしくありました。僕のために最善の御馳走をしてくれて有難う。子供のものを侵略した様ですまなかつた。OPMNは楽しかつた。照雄が大きくなつて何よりうれしかつた。信雄の歯も忘れた様な顔をしていて安心した。歌子は相変わらずスキキライが強く、段々治してやつてもらおう。神経質にならない様に。すこしその傾きがある。清子もいい子なのだが、感化され易い性質だから、お母さんの模範と力にひきつけられる様にしてもらおう。それには規則正しい生活をなるべくさせる様に。何といつても長女だから、妹や弟たちに対する影響が大きいから。よく指導しておくれ、愛と権威とを以て。

帰りの汽車は大こみ、仙台まで3時間を立ちどおし、やつと仙台から腰かけられた。あれは常磐線で平の付近で警報にでつくわし、2時間たち往生。上野発が8時25分、千住さしかかつた頃、私の乗り換えるべき信越線が日暮里の辺を行くではないか。全く癪だつたね。こんなに延着するとは思わなかつたもの。上野で12時50分まで4時間余も待った。おベントーをたくさんつくつてもらつたことが大いに助かつて有難う。軽井沢着が夕方5時（上野で乗車するとき、あぎれたのはインチキ連中の多いことで、僕がトップであるにも拘らず前の列車に便乗してプラットホームに待っているやつがかなりいて、2等車が既に半数も埋まつているには



アキレタ）。軽井沢の手前、碓井峠でとって置きあの赤飯のオベントーをキレイにたいらげた。とても美味しかった。草津鉄道はもうその日は運転終了。とうとう松田君ゆきとなった。約30分を歩いて、林間のおとぎばなしの国の様なおやどについた。自動車2台にキレイなうば車1台が玄関にあった。松田君は腹をこわしたあげくで顔色がよくなかった。稔子さんもノンちゃんも元気で、洋装にブローチ姿はあの絵にある様なものであった。

ホットケーキに蜂みつをつけたもの、コー茶、ウドン、ソバガキ、などなかなか御馳走になった。ノンちゃんは7時頃、「オヤスミナサイ」をしてねてしまった。大きくなった。照雄とひと廻りは完全に大きい。夜はよく眠るよし。10時頃まで主として松田君と語った。日本間に絨毯がしいてあって、椅子テーブルの6畳室であった。野村胡堂先生夫妻もしばらく一緒にはなされた。ねがけに胡堂さんの書齋で、レコードを一寸きいた。500枚位きいているのだが、大部分9千何百枚は、高井戸にそのままの由。絹の布団にねた。すべてが我々とはケタがちがうこと申すまでもない。しかし、いかにも平和な幸なアトモスフエーヤ〔雰囲気〕であった。近隣4家が共同で何百坪かの農園を耕作して居られる由。日得の様にして自活の道を講じて居られる由。鶏も居る。実際別天地である。松田君の室は二階で、室が二階に三つあるとか。設備万端よく出来ている。湯どのも広くて、水道が出て、カンタンに水が満ちる。便所も水洗式である。我々の東京の家も及ばないこと勿論である。ともかく、羨ましいお住居である。不便な間借りをしている順子たちのことを思つて可哀想に思つた。10年間も前に準備して置けばとも思つた。しかし、上には上がある様に下にも下がある。与えられた場所を感謝せよ。そして運命と戦い、且つ開拓して行こう。危険と冒険と苦難のある人生の方が人生らしいのだろう。一番幸なることはすべての道を通して、神に信頼することを学ぶことだ。子供らに神様に対する敬虔な心を育てることを何よりも忘れてはならない。信仰とは神への信頼、藤井先生に学んだ順子と辰雄である。この一事からはなれたら、何の益があろう。そして信頼のあるところに本当のスイートホームがある。本当の天国がある。どうか、家庭を本当の天国的な幸に満ちあふれしめるものは母の心にあること。母の敬虔な気持と、あたたかい愛の中にあることを想い、子供たちが本当に「お母さん、お母さん」といつて親しむ様になつておくれ。然らばいかなる立派な家もこれには到底及ばないのである。

朝4時半ごろ起きて、5時少し前に松田君をおいとしました。稔子さんがおベントーをつくつてくださった。松田君は自転車で軽井沢の草津電鉄の駅まで見送つてくれた。三原の駅についたのが8時半頃。そこでトラックを待つまでに朝食（稔子さんのオベントー）をたべた。心づくしの品々が入っていた。魚のカンロ煮、オイモ（ジャガ）デンプ、ツケモノ、といったあんばいに、地はしかも純米であった。一晚一朝の友人たちの好意と親切に対しては深く感謝せざるを得ない。何といつても、信仰の友人の心には普通の人とちがうものがある。それにつけてもFあたりとは感じがちがう様に思う。順子もひとに愛され尊敬される婦



人になつてもらいたい。そして、それは僕のところへ来たときより向上していることをうれしく思う。いよいよ床しき婦人になつてもらおう。僕もそういう人間になるから。両親が立派にならなければ子供が立派にならぬことはあたり前である。子供らが気品のある人になる様に、それにつけても清子の言葉使いをおしてもらう。順子自身ももう少しテイネイな言葉をつかった方がよいと思う。僕自身のことはいつもたなにあげていてすまないが、充分これは自分でも気をつける。

以上の如きわけですから、松田君と稔子さん連名宛にして、是非お礼のたよりをして置いて下さい。「長野県軽井沢南原 野村様方 松田智雄、稔子」が宛名です。野村さんへもよろしくお礼の言葉を忘れない様に。

それから、浅田小枝子が先日、浦和まで（欣三氏の宅へ）出て来たついでに、空襲後の拙宅の安否見舞にわざわざ来てくれた由、おたよりがあり、順子たちへよろしく一ノ関の様子をたずねて来たから、一度これもお礼を出して下さい。僕がちつとも出来ないでいたものだから、僕がこつちに居ることを知らず、東京をたずねて気の毒なことをしたわけでした。「福井県小湊町白鳥 浅田小枝子」が宛名です。その外、江藤君から、また珍しく富山君からもたよりがあつた。鹿児島島の憲兵隊でつとめているとは驚いた変わり方である。勿論学校と縁きりではないのでしょうか。

トキワは、「長野県北安曇郡常磐町西山 山西藪様方」でよいわけ。どうしたのでしょうか。山本の富美チャンから良さんが無事の由、言つて来ました。金沢先生の奥様は今月の末に離床の予定、2、3年は安静を要する由、なかなか大病である。杉並区上高井戸。これは御参考までに。

なかなか忙しいでしょう。洗濯物はあらつて置いて下されば結構です。必要になったら言いますからそれから送つて下さい。それから、まだほかに荷物が着くことがあつたら、その都度しらせて下さい、大体何がついたかを。

ゴタゴタ書きましたが、いつも中心は一つ。神をすべてを通して学び、彼に信頼せんことのみ。而して我々は真実一点張りで全力をそそがんのみ。信雄と歌子の絵、有難う。みんなによろしく。

順子！ 6月22日、辰雄。

——1945年6月27日——

その後、風邪はどうですか。もうすっかり治ったことと思いますが。こちらは大分夏めて来ました。つつじも凡そ終わり、スズランも香りはて、空ゆく雲が夏の光を増して来ました。散歩をしてもなかなかあつくなりました。つゆもそろそろあがるのでしょうか。も



うここへ来てから一ヶ月がたちました。早いものです。

沖縄の玉砕！ いよいよ空爆がはげしくなるでしょう。本土戦までは時間があるとは思われますが。中部中国近畿あたりの中都市がやられ始めていること新聞ラジオで御承知の通りでしょう。新聞ラジオは注意してよんだり聞いたりして下さい。日に日に情勢が変化し、急転することもありますから。それで一ノ関は東北本線の中都市ですから、充分要心する必要があります。ことに藁ぶきですから危険なので、私は極力、移転を勧めます。何とかありませんか。むしろ佐沼の付近の方がいいかもしれませんね。（藁葺き云々の件は勿論、Fには言わないこと）出来れば信州の方へ急転長駆すれば一番いいでしょうが。今となつてはいかがなものか。若し荷物が相当量運べるものなら、私がこちらの方面でさがしてもいい。役場や駅で試みてみてごらんさん。こちらといつても、長野県の方が有利でしょうが。

私は今日、希望をきかれたから、第一希望を新鹿沢、第二希望を中之条（榛名山の北麓地帯）とし、東京は希望せずと答えましたから。多分、現場にとどまることでしょう。いよいよ冬ごもりとなれば、蒲団も欲しいので、今におくつてもらいたいと思います。スキーも揃えたいと思っています。佐藤君のを借りられればと思っています、靴も。

いずれ来月20日頃、一旦、卒業式のため帰京しますが、そのとき出来ればおたずねします。これもあてにはなりません。

思えば先日のお赤飯は思い出すも美味しかったよ。あんなのはいつまた食べられるかと思う。何しろ、ここは気持がいいので、体重も今は体格ケンサの結果、レコード破り49キロ600だから、13貫200匁というところ。秋には50キロを突破、今どき勿体ないはなしだが、後日のガンバりのために。勉強は大分よく出来てうれしい。

来月早々、試験をやる。それから語学の研究会がある。それから少し授業があつて卒業式。バタバタ経つてゆくでしょう。

子供たちはみんな元気だろうね。教育としつけをよろしくたのむ。一番大切なのは神様に対する敬虔な心。食前のお祈りは折々やっておくれ。神様のおはなしや聖書のおはなしも折々やった方がよい。気品のある子供にして下さい。

陳君、夜の往診で坂からおちてケガをした由。一寸、お見舞を素蛾氏にした方がよいでしょう。

一週間に一度は手紙を書いてもらいたい。様子もわかるし、会話も何かと出来るし、お互いに慰めとなるわけですから。僕の何日づけのどういう手紙をみたということをそのとき書いてほしい。とどいてるか否もハッキリしてよいから。

話が前後するけれども、丸一へは時折ゆきますか。適当にやってレンラクをつけた方がよいでしょう。そして早く出ることだね。何しろ独立すれば僕も気楽にたずねられる。

東京の家はやるまでというより仕方がありませんね。戦時火災保険証明書はそちらにあるのでしょうか。3千円はすぐもらえる由（木内君はこの間行つてもらつて来た）。よくしら



べて置いてください。

それから荷物はその後つきましたか。ついたら手紙で知らせて下さい。まだ書きたいことがあるようですが、これ位で。

子供たちにお父さんからよろしくと云って下さい。みんないい子になる様に。

無限の想いを聖書の中に託す。聖書は僕の力、いのち、言ですから。

この頃は聖書は勿論、その他は、ゲーテの『ファウスト』を一生懸命によんでいます。こちらに居るうちに、大ものをマスターしてしまうつもり。

断然、偉大なる人物の、詩人の一人となる覚悟、のぞみを僕の将来に充分託してもらいたい。神様がその意味で僕を山間に置いて下さると信ずるから責任を深く感ずる。ルター、日蓮の如き信仰の英雄にもなる。預言者にして詩人。僕は永遠の青年、この魂を世界無比のものに！

ごきげんよう、神を讃美しつつあれ！ 汝を抱擁す。 Vom Herzen zu Herzen（心から心へ）

順子！ 1945年6月27日

辰雄。

——1945年6月28日——

順子！

6月28日

辰雄。

23日付のおたよりうれしく拝見しました。どうやら疎開先の目鼻がつきかけてきたらしく期待しています。即決して実行に一日も速く移った方が宜しいです。一ノ関のあの大きな小学校よりも教育の点からいっても、小さい小学校に入ればなお結構です。子供の教育の大半は母親にありますから、お母さんさえしっかりしてくれば大丈夫です。それに今の様にFの家庭との比較があるのはよくありませんし、Eの様な子供と共に居ることは清子のためにもなりません。順子もはやく不自由でも独立した方がよいでしょうから。引越しの時、僕が居ないと困るでしょう。そのときは電報をよこせば、請願休暇をもらって行きます。来月の（7月）6日～10日まで、18日から卒業式（27日の予定）までの間なら行けると思います。理由は電文で何でも僕が行かねばこまる様なものを書けばよい。転宅の件でよろしいから。

岩淵さんには驚きましたね。あれはよい人だから、将来御交際をしてよいと思う。ついでがあつたら、宜しくおつたえして下さい。石川さんに有力者が出来たよし。家のことも、うまく行かなかつたら、その方面におねがいしても宜しいでしょう。F並びにその関係者の冷血さは、まあそれとして感情は害さぬ様にした方が宜しいです。むしろ、こちらがわの気持のあかるさを先方に感ぜさせる様に。

照雄のオシッコはなるべくもらさぬ様にするのですね。



いろいろ御馳走が出来てよかった。時折、補給するのですね。お米はしかし大切に。こんど僕が行くときは、壕の中のものをみんなもって行こう。僕はまず新鹿沢で冬越し組の方に入るらしいから。家のことは先便でこちらへでもと書いたけれども、そちらにみつかればそれに越したことはないさ。尤もこちらの近くに居れば最善には相違ないけれども。来春以後、僕のことはどうなるかケントーは今からつかないし。アメリカの出ようにもよることだから。

支那鍋、お釜の件（ほうきはもって行くのが大変ですね）承知しました。センタク物有難う。お手かずでした。支那鍋は陳氏につかってもらってもと思っていたけれどもやめましょう。僕から順子へあてた手紙はよくしまつて置くように。他人には絶対にみせられませんから。順子が外出するときは、誰か清子が歌子が留守をする様に。みんなで外出するときは、よくぬかりのない様になさい。あのカバンあたりもしっかり蔵し、カギをかけておかねばなりません。少しノンキすぎる様ですから。

では今日はこれで失礼。

